



INOKASHIRA PARK ZOO EDUCATIONAL GUIDE BOOK

井の頭自然文化園
教育活用ガイドブック
見どころと利用案内
2025年8月

入園のご案内

井の頭自然文化園を活用しよう

案内図に沿って、動物の名前を確かめながら歩くだけではもったいない。気楽な遠足も、ちょっと工夫することで、すばらしい動物との出会いを演出できます。そのためには、それぞれの動物のその動物園ならではの注目点を知っておくことです。生きた希少な動物がいる動物園は、理科、生活科、総合的学習などの教科の時間でも十分に利用してもらえるテーマを持っています。

井の頭自然文化園では、団体来園者に少しでも有意義な見学ができるように、見学方法の相談や教材の提供、動物の前での解説等を行っております。このガイドブックは引率者のための見学の虎の巻を目指して作成しました。事前学習の参考資料や来園当日のセルフガイドブックとして、ぜひ活用してください。



もくじ

- 入園のご案内 1
- 動物園での動物の見方 2
- 園内図 4
- 動物や園内の見どころ
 - モルモットふれあいコーナー（休止中）・家畜 6
 - 日本にすむ動物 8
 - 外国からきた動物たち 10
 - リスの小径・野山の鳥 14
 - 資料館・樹木・彫刻園・大放飼場 16
 - 水生物館・水辺の鳥 18
 - 園内の自然と井の頭池 20
- 事前学習を盛り上げよう・教材の活用・園内での過ごし方 22
- 動物解説員のプログラム・テーマをもった見学例 24
- 白地図 26

開園時間

9時30分～17時00分（入園は16時00分まで）

休園日

毎週月曜日（月曜日が祝日・都民の日ときは、その翌日）・年末年始（12/29～1/1）
※一部の月曜日を開園することもあります。

入園料 1枚のチケットで動物園（本園）と水生物園（分園）の両方に入園できます。

	個人	団体 (20名以上)	年間パスポート	
一般	400円	320円	1,600円	※小学生以下、都内在住・在学の中学生は無料です。中学生は生徒手帳を持参してください。 ※障害者手帳・愛の手帳・療育手帳をお持ちの方と、その付添者1名は無料です。 ※65歳以上の方は、年齢の証明となるものをお持ちください。 ※年間パスポートの有効期間は、購入日から1年間です。 ※団体割引券は追加購入や払い戻しができませんので、人数を確認のうえ、お買い求めください。
中学生	150円	120円	—	
65歳以上	200円	160円	800円	

入園料の免除団体

下記の団体・施設が正規の授業で入園する場合は、生徒・入所者、教職員、場合に応じて介護者^{※1}の入園料が免除になります。

幼稚園・小学校・中学校（盲学校・聾学校・養護学校を含む）、児童福祉施設（保育園を含む）
身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神障害者福祉法に基づく施設・事業
生活保護施設、精神病院、精神病床を有する病院、精神科診療所

（※1）介護者は、要介護の生徒・入所者1名につき1名が免除になります。

車でご来園の方へ

井の頭自然文化園に駐車場はありません。隣接する井の頭恩賜公園の有料駐車場をご利用ください。

問合せ先：井の頭恩賜公園駐車場 電話：0422-79-2947

乗用車：400円/1時間 以降200円/30分、バス（要問合せ）：1,200円/1時間 以降500円/30分

車椅子利用者の車からの乗降

正門前広場へ車を取り入れての乗降を希望される場合は、事前に来園時間と退園時間をお知らせください。車止めをはずし、警備員が車を誘導します。健常者のみの団体の車の乗り入れはできません。

来園予約・利用案内についての問合せ先

井の頭自然文化園 管理係 電話：0422-46-1100 FAX：0422-46-1906



動物園での動物の見方

動物のかたちを見る

動物園で動物たちのくらしや動きを見ながら、その体の特徴を観察をすることで、体のかたちと動きとのつながりを一層理解しやすくなります。生活科では、食べものと糞の観察、小学校高学年以上では、骨格標本を使いながら、食べものと歯の形、くらしと足や指のつくりを学ぶこともできます。



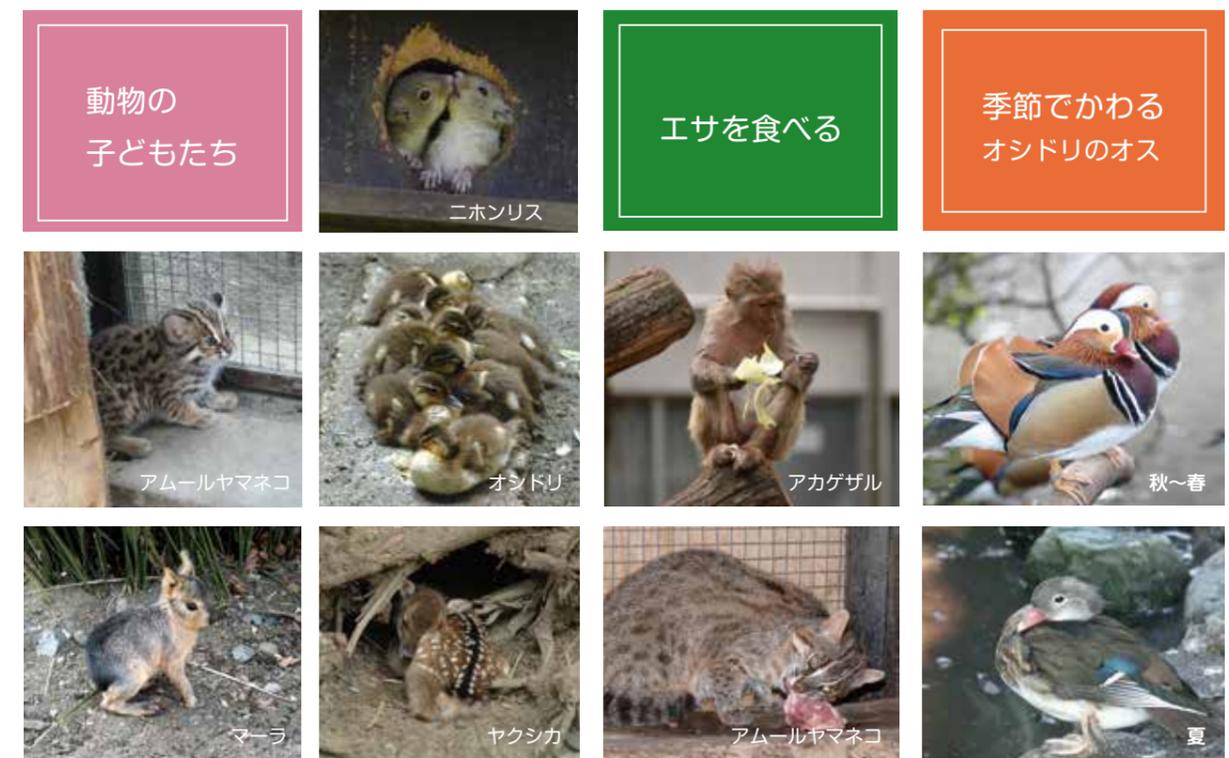
動物のしぐさを見る

生きている動物が展示される動物園では、子育ての様子やオスとメスの関係など、動物の行動を観察する楽しみがあります。群れでくらすアカゲザルは、個体間のやりとりからその関係性を発見することができ、ニホンリスであれば、季節折々の野生下とあまり変わらないしぐさを見ることができます。



動物園の得意な分野

動物園では、野生ではなかなか観察が難しい動物も近くでじっくりと見ることができます。繁殖行動や赤ちゃんの成長、エサの内容や食べ方、夏毛と冬毛の変化などの季節にあわせてくらしを実際に観察することで、動物が人とは異なる様々なくらしをしていることを、実感をもって感じることができるでしょう。



子どもたちの目を生きた動物へ目をむかせよう

知識として知っていることを、自身の実感を通して確かめることはとても大切なことです。形やしぐさ、食べものの違いといった、いろいろな見方を織り交ぜて子どもたちの観察を促すような声かけをしてみましょう。また、ここにあげた観察ポイントだけでなく、他にも知らなかったことに気づくたくさん見方があるでしょう。いきものがすることは誰も予想することはできず、反面、観察する側も自由に楽しみを見出すことができます。どんなきっかけでも、まずは動物へ目を向けさせることで、子どもたちならではの発見が生まれるのです。

実地踏査のすすめ

事前踏査では、トイレや昼食場所の確認だけでなく、自分の目で動物の観察を楽しんでみてください。それを子供たちに伝えることで、引率者が一緒に楽しむガイド役になれます。また、その時期ならでのみどころ、教材や校外学習など、目的に沿った来園となるよう学校団体をサポートしています。ぜひご相談ください。





モルモット コーナー

ふれてあたたかさを 実感しよう！

モルモット(テンジクネズミ)

げっ歯目テンジクネズミ科

モルモットは、今から南アメリカに生息するテンジクネズミ科の野生動物を元に、人が食用や愛玩用に飼いならしつづけた動物です。約 150 頭のモルモットたちは、井の頭自然文化園生まれです。毛が白く赤い目をしたアルビノから、黒っぽい毛色、短めのスムースヘアー、巻き毛などいろいろな姿のモルモットが生まれました。



POINT

モルモットの 観察ポイント

- しっぽはあるかな？
- 目はどこについているかな？
- 体はどんなもようかな？
- 鳴き声を聞いたかな？
- 足のうらはどうなっているかな？

モルモットの 赤ちゃんのおうち



ふれあいコーナーのモルモットたちを計画的に繁殖させています。妊娠したメス、お見合中のオスとメスのペア、生まれたばかりの子どもと母親、その時々で見られるものが変わります。

動物園クイズ ▶ 毎月赤ちゃんがうまれるよ

Q. うまれたばかりのモルモットの赤ちゃんは？

- ① 毛が生えていない 目も開いていない
- ② 毛が生えていて もようがある
- ③ 毛が生えていて もようがない

A. ② たまに ③

団体での モルモットコーナーの 利用方法

事前Web予約制

幼稚園保育園の5歳児（年長）クラスと
小学1・2年生を対象としたプログラムです。

利用時間

火曜日・金曜日（祝日をのぞく）
10:00 ~ 11:30 / 10:30 ~ 11:30
11:00 ~ 11:30

【当日の流れ】

- ふれあいコーナーに着いたら
 - ・荷物は外のベンチにまとめておいてください。
 - ・入り口前に並んでください。
- コーナーに入ったら
 - ・指定の場所に座って下さい。
 - ・スタッフの説明を聞いて触り方を練習します。
 - ・モルモットとふれあい、体のとくちょうをスタッフと一緒に観察します。
- コーナーを出たら
 - ・必ず手を洗って下さい。

事前Web予約制です。
ご希望の学校は、井の頭自然文化園の
ホームページよりお申し込みください▶



こんにちはモルモット

対象：幼稚園・保育園 5歳児(年長)クラス
定員：各回 30人まで

初めての子でも安心できる優しいさわり方をぬいぐるみのモルモットで練習した後に、2人一組で本物のモルモットにさわります。モルモットをよく観察して、おもしろいところやすてきなところを探してみましょう。

モルモットだいはっけん！

対象：小学1・2年生クラス
定員：各回 40人まで

優しいさわり方のレクチャーを聞いた後に、2人一組でモルモットをさわります。親しみを持つと同時に、間近でじっくりと観察しましょう。モルモットがどのような体のつくりをしているのか、形とくらしの関りなどを学びます。

お願い

- 事前に保護者にアレルギーの有無を確認してください。
- 必ず引率者が付き添い、クラス単位、または、30～40人程度にまとめて利用してください。
- 写真師さんは、一緒にコーナーに入れますが、写真撮影を目的に保護者がコーナーに入ることはできません。

家畜舎

高い台もひとのぼり！



ヤギ

偶蹄目ウシ科

元は岩場や森林に生息していた野生のヤギを、肉や乳、毛皮を利用するために人が飼いならしつづけた動物です。野生のヤギの仲間、敵から身を守るために見通しのよい高い場所に登りますが、家畜のヤギも同じように高いところに登りたがる習性があります。

形クイズ ▶ 目は動物によってさまざま

Q. ヤギのひとみは どれかな？

- ①よこなが
- ②たてなが
- ③まるい

A. ① たまに ③

沖縄からやってきたニワトリ

ニワトリ(チャン)

キジ目キジ科

沖縄で飼われてきたニワトリの品種で、かつては肉用でしたが、今は鳴き声を楽しまれています。あごの下に肉垂れがなく、ひげのよような羽が生えています。



気になるほうへ 耳がむくよ

カイウサギ

ウサギ目ウサギ科

ヨーロッパのアノウサギを愛玩用や食用に家畜にしたもので、いろいろな大きさや毛色の品種がつくりだされています。長い耳は気になる方向へ向けることができ、まわりの様子を調べます。



家畜たちの観察ポイント

- ヤギはどこで休んでいるかな？：高いところが好き
- ヤギのウンチはどんな形？
- ヒツジの目はどこについている？：まわりが見やすいよ
- ニワトリのオスの足にはケツメがあるよ！
- ウサギは耳を立てているかな？：気になる方向へ向くよ

日本にすむ動物

一頭で森にひっそりくらす



ニホンカモシカ
偶蹄目ウシ科

日本の本州、九州、四国の山地にすんでいます。なわばりをもって単独でくらし、恋の季節だけオスとメスが一緒に行動します。きまった場所に糞をしたり、目の下にある眼下腺から出る臭いのある粘液を枝先などにこすりつけてなわばりの目印にします。オスメスどちらも一生伸び続ける角をもち、一目で性別を見分けることできません。木の葉が好きで、園内に生えているアオキやカシを与えています。残った枝は隣のヤクシカに与えると皮まで食べまいます。

いつも仲間と一緒ににぎやか



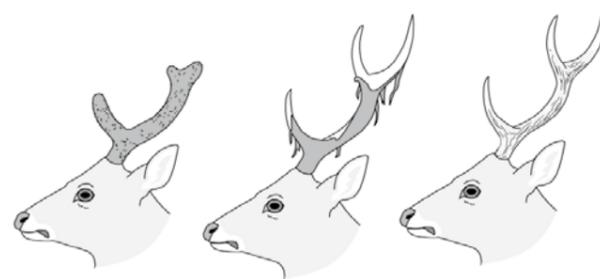
ニホンジカ (ヤクシカ)
偶蹄目シカ科

ニホンジカのうち、屋久島にすむ亜種ヤクシカを飼育しています。角はオスだけにあり、毎年春に生え変わります。古い角が落ちると、袋角(ふくろづの)と呼ばれる柔らかい皮に包まれた新しい角が伸びはじめ、夏の終わりには皮がはがれて下から固い角があらわれます。そして、秋の恋の季節にはオス同士は角を使って力比べをし、優位なオスがメスの群れに入ることができます。カモシカの隣のほかに、大放飼場(ハビタット)にも群れがいます。

シカとカモシカの観察ポイント

- なにを食べているかな? : シカは草、カモシカは木の葉
- ヤクシカのオスはどんな角かな?
- ウンチをくらべよう! : シカはばらまき、カモシカは定点
- 足先はどんな形、どんなことに便利かな? : 固い蹄(ひづめ)
- カモシカの目の下の分泌腺を探そう!
- ヤクシカの体に模様があるかな? : 夏毛は白い斑点
- ヤクシカの声が聞こえたかな?

Q. あなたが見たヤクシカのオスの角は どれ?



春・夏

夏のおわり

秋・冬

形クイズ ▶

季節の変化を見つけよう!

季節で顔の模様が変わる



テン
食肉目イタチ科

日本の本州、九州、四国、対馬に分布するイタチの仲間で、冬毛と夏毛で姿が大きく変わります。高い木の上もすばやく動くことができ、果実やネズミ、鳥、トカゲ、昆虫など季節に応じてさまざまなものを食べます。野生では単独でくらすため、動物園でも1頭ずつ飼育しています。午前中は巣箱で休んでいることが多く、午後になると活発に走り回ります。

顔の模様が名前の由来

ハクビシン
食肉目ジャコウネコ科

東南アジアに広く分布しています。森林にくらす動物ですが、都市にも適応し、園のまわりにも野生のものがすんでいます。日本のものは人によって持ち込まれた外来種であると考えられています。漢字では白鼻芯と書き、顔の中央の白い模様からついた名前です。木登りが得意で、ワイヤーロープのような細いものでも、上手につたって渡ることができます。

日本の中型動物の観察ポイント

- ハクビシンはどこで休んでいるかな?
- テンの走り方は? : 馬跳びのようです
- キツネの瞳の形は? : ネコのように縦長です
- アナグマのしっぽはあるかな? : 小さめです
- アナグマのすどい爪をみよう!

小獣舎の動物

じっと見つめられる!



アカギツネ
食肉目イヌ科

里山にすみ、野ネズミのような小動物を好んで食べます。大きな耳で獲物の位置を探り、ジャンプをして前足で押さえつけて捕らえます。ふさふさとした長いしっぽは、ジャンプをする時にバランスをとる役割があります。

日中は巣箱で休んでいます



ムササビ
げっ歯目リス科

森にくらし、果実や種子、花や葉を食べます。夜行性のため、日中は巣箱から出てくることはめったにありませんが、日没後 30 分くらいから活動を始めるので、11・12 月の閉園直前には動く様子を見られることがあります。

トンネル掘りの名人



ニホンアナグマ
食肉目イタチ科

イタチの仲間です。大きく頑丈な前足の爪で土を掘るのが得意です。地中につくた複雑なトンネルで家族でくらし、トンネルの中で動きやすいように耳やしっぽは小さめです。

外国からきた どうぶつたち

泳ぎが得意、 最大のげっ歯類



カピバラ

げっ歯目テンジクネズミ科

南アメリカのアマゾン川流域の水辺で暮らし、危険を感じると川に飛び込んで泳いで逃げます。指の間には水かきがあり、泳ぐために便利な体つきをしています。動物園では、夏などの気温の高い日に、よくプールに入っています。

北極圏にすむフクロウ



シロフクロウ

フクロウ目フクロウ科

北極圏で暮らし、足先までふさふさの羽毛に覆われ厳しい寒さの中でも体温を奪われないようになっています。気温が低く樹木もまばらな地域にすむため、他のフクロウの仲間と違い、地面を足で掘って巣をつくらせます。また、日中の明るい時間帯にも活動します。

家族で力を合わせてくらす

ミーアキャット

食肉目マングース科

アフリカ南部の乾いた草原や荒地に家族ですみ、土の中にトンネル状の巣穴をほります。仲間同士で助けあってくらす動物で、巣穴の近くの小高い場所に交代で見張り役が立ち、危険がないか警戒します。また、生まれた子どもは親だけではなく、兄弟たちも世話をします。



ウサギ、シカ、カンガルー？

マーラ

げっ歯目テンジクネズミ科

アルゼンチンの草原にすみ、哺乳類では珍しく、オスメスのペアですごします。子育ても複数のペアが共同で子ども用の巣穴をつかう変わった生態をもちます。座るとカンガルー、長い耳はウサギ、走ることが得意な足はシカのように、姿はいろいろな動物に似ていますが、モルモットに近いげっ歯類です。



魚とりの名人！



ユーラシアカワウソ

食肉目イタチ科

ユーラシア大陸に分布し、泳ぎながら魚を捕まえて食べます。足の指の間には水かきがあり、小さな耳と平らな体は泳ぐときに水の抵抗をうけにくい形です。夜行性で日中は巣箱の中で過ごす時間が長いですが、夕方になると動き始めます。

砂漠ぐらしの最小のキツネ！



フェネック 食肉目イヌ科

アフリカのサハラ砂漠周辺に群れてぐらし、昆虫などの小さいものを捕まえて食べます。大きな耳は体温を外に逃がす役割をし、足裏の肉球のまわりには、熱せられた地面を歩くときにも熱くならないように毛が生えています。

POINT

外国の動物の観察ポイント

- カピバラはどんな耳？：小さく泳ぐときに邪魔になりにくい
- フェネックの足の裏を見てみよう：
砂漠でも歩いて暑くならないよう毛が生えているよ
- カワウソはどんな足？：指の間に水かきがあるよ
- マーラの耳はどっちを向いている？：気になる方へ向くよ
- ミーアキャットは見張りをたてるよ：
まわりに危険はないか交代で見張っているよ

アジアゾウのはな子

戦後最初に来日し、 日本一長生きしたゾウ

はな子は 2016年5月26日に
69歳の国内最長寿記録を残して死亡しました

はな子は、タイ・バンコク郊外の王室とゆかりの深い農園で 1947年に生まれました。1949年に終戦後の日本の子どもの心をいやすためにタイから寄贈され、戦後はじめて来日したゾウとして上野動物園へやってきました。井の頭自然文化園には移動動物園で3度来園し、近隣の子供たちからの要望に応じて、1954年に引越してきました。



神戸港に到着した2歳のはな子

1982年後ごろから体調を壊し、1983年の年末には左右の上側の奥歯が相次いで抜け落ちてしまいました。それ以来、食べ物をうまく咀嚼できなくなったはな子のために、通常の動物園でのゾウのエサとはだいぶ違うものを与えてきました。



抜けた右下の奥歯

2007年ごろの主なエサの内容



はな子団子



夕方



2012年ごろからは、これまで気に入っていた「はな子団子」を食べなくなってしまいました。いろいろなものが試され、季節に応じた果物や麦飯のおにぎり、園内で採取した野草などを好んで食べました。

現在ゾウ舎では、はな子の69年の生涯を振り返るパネルとともに、はな子が実際に遊んだタイヤやホースなどを展示しています。

オオコウモリ舎

果物を食べる大きなコウモリ

オリオオコウモリ 翼手目オオコウモリ科

一年中暖かい沖縄諸島に暮らし、花や葉、果実を食べます。体を軽くして飛びやすいため、食べものは噛んで汁だけを飲み、残った食べかすは吐き出すという面白い食べ方をします。基本的には夜行性ですが、夕方やときには昼間も活動します。



海を越えてくるフクロウ



アオバズク フクロウ目フクロウ科

初夏に東南アジアから日本などへ飛来して子育てをするフクロウの仲間です。昼間はじっと休み、夜になるとカブトムシなどの昆虫を捕まえて食べます。青葉がしげるころに現れるのでこの名前になったようです。

オオコウモリ舎の観察ポイント

- オオコウモリの前あしはどうなっているかな？
- オオコウモリがうんちやおしっこをする時の姿勢は？
- オオコウモリはなにを食べているかな？
：動物園では、オレンジやバナナなどの果物やトマトなどの野菜を食べているよ

ヤマネコ舎

東アジアにすむ希少なヤマネコ

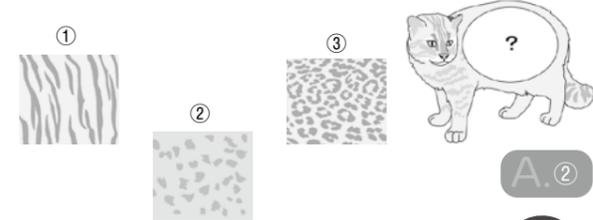


ツシマヤマネコ 食肉目ネコ科

長崎県の対馬に100頭ほどしか生息しておらず、絶滅が心配されています。同じヤマネコ舎にいる韓国からきたアムールヤマネコは、生物学上の違いのない同じ亜種に分類されています。そこで、井の頭自然文化園では、アムールヤマネコをモデルとして、ツシマヤマネコの人工授精による繁殖技術の研究が続けられています。小柄な体つきですが、樹上でもしなやかに動き、160センチを超える高さまでジャンプすることができる有能なハンターです。

【形クイズ】 ▶ えものにしのびよるときに役立つよ！

Q. ヤマネコのからだのもようはどれかな？



ヤマネコの観察ポイント

- どこにいるかな？：体のもようで景色にとけこむよ
- 体の模様を見よう！：模様はどんな時に役立つかな？
- 足おとはするかな？
：しのび足が得意！とてもしずかに歩くよ

ペンギンプール

水中を飛ぶ鳥

フンボルトペンギン ペンギン目ペンギン科

比較的温暖な南アメリカの太平洋沿岸にすみ、東京でも一年中屋外で飼育することができます。時々、オスとメスがつがいの絆を確認するために、船の汽笛のような大声で鳴きかわします。



ペンギンの観察ポイント

- 泳ぐときに動かすのは、足・翼？
：空を飛ぶように翼を振って水をかき、足の水かきは、方向を決める舵の役割です
- どれくらいの速さで泳ぐかな？
：魚を追うために猛スピードで泳げるよ
- 動物園でのエサは何か？：魚のアジです
- どんなくちばしをしているかな？
：つかまえた魚を逃がさないようぶあつく、先端はするどいカギ状になっているよ

サル山

なかま同士でなにしてる？



アカゲザル 霊長目オナガザル科

中国南部からインドにかけて生息し、オス・メスが複数集まった群れをつくりまします。生まれたメスはその群れに残り、母と娘の結びつきは生涯続きます。オスは、野生ではやがて生まれた群れを離れ、別の群れに入ります。夜間は安全な木の上で休み、日中に葉や花、果実、昆虫などさまざまな食べ物を求めて、群れで移動をしながらくらしまします。

秋から冬は恋の季節



秋の恋の季節を迎えると、オスは、ゴッゴッと低い声でいぼったり、しっぽを立てて歩いたりなど、ほかの季節よりも積極的に誇示行動を行います。発情したメスは、気に入ったオスと数日間一緒に過ごします。

サル山の観察ポイント

- ボスザルはいるかな？
：サル同士にはむれの中で順位がありますが、ボスのようなリーダー役はしていないようです
- 毛づくろいをしているかな？
：毛づくろいには、体についた汚れをとるほかに、親しいサル同士で絆を深めあう役割があります
- 尻だこを見つけよう！：尻だこはどんな時に役立つかな？
- 何を食べているかな？
：動物園ではなにを食べるかな？ほおの内側の「ほお袋」にためることもあるよ

リスの小径

木の上的クルミ好き

ニホンリス

げっ歯目リス科

本州、四国の森林にすむ日本固有種です。単独で日中に行動し、種子や果実、花、葉、昆虫などを食べます。通り抜け型のケージ「リスの小径」には50頭ほどのリスが暮らし、毎年3月初旬ごろから出産が始まり、5月の連休ごろにその年生まれのリスが巣から出てくるようになります。子育ては夏の終わりまで続きます。秋は、食べものが乏しい冬の季節に備えて、盛んに食べものを埋めたり隠したりします。飼育下では1年中みられる行動ですが、この時期がもっとも観察しやすくなります。



冬毛



夏毛

換毛
4月と10月ごろに変身します

冬に備える



秋は、食べものを土の中や枝のすきまなどによく隠すようになります

子の成長



推定生後6日目



生後2か月もすると巣からよく出るようになります

形クイズ

▶ 季節によって姿が変わるよ!

Q. 「リスの小径」でみたリスはどれ?

A.

① または ③



①おなががしろい ②おなががしろくない ③おなががしろい
みみのけがみじかい みみのけがみじかい みみのけがながい

ニホンリスの観察ポイント

- エサ隠しをするかな? : 地中や樹上に貯えます
- リスが食べたあとのクルミの殻はどんな形?
- クルミを削る音を聞こう!
- 耳に長い毛があるかな? : 冬毛にはあります
- 木の上で休んでいるリスを探そう!
- しっぽの役割は?
: バランスをとったり、マフラーや傘にしたり

野山の鳥

猛スピード! 空のハンター



ハヤブサ

ハヤブサ目ハヤブサ科

地球上の南極を除く全ての大陸に広く分布する中型の猛禽類です。鋭いくちばしとかぎづめを持ち、主にハトなどの鳥を狩ります。ヒトの8倍と言われるよく見える目で獲物を探し、狙いを定めると翼をたたんで最高時速320キロで急降下します。

長い尾羽は魅力的?

ヤマドリ

キジ目キジ科

本州から九州の森林に生息する日本固有種です。メスは草木にかくれやすい茶色っぽい姿ですが、オスは派手な長い尾羽を持ち、目の周りは赤い皮膚が目立ちます。メスに対して自分の健康さを示して魅力をアピールしていると考えられています。



野山の鳥の観察ポイント

- どんな声で鳴いているかな?
- くちばしの形をくらべてみよう!
: 種子をついばむ短いくちばし、肉を食べるすどいくちばし...
- オスとメスの色が違う鳥を探そう!
- 何を食べているかな?
: すり餌、種子類、果物、ミールワーム

優雅で にぎやか カラスのなかま

オナガ

スズメ目カラス科



水色の羽に長い尾羽が優雅な、カラスの仲間です。鳥類では珍しく一年を通して群れで暮らし、子育ては群れの仲間も手伝います。「ギュー ギュー」など、よく通る声で鳴いて互いに複雑なコミュニケーションをとります。

フルーツが大好き

メジロ

スズメ目メジロ科

平地や山林などにすみ、黄緑色の体と目のまわりの白いリングが目印です。花の蜜や果物を好み、筆のようなかたちの舌先をさしこんで食べます。



森の忍者を見つけよう!

オオコノハズク

フクロウ目フクロウ科

ロシアや中国、日本などの森や林にくらす小さなフクロウの仲間です。夜行性で、日中は木の幹や樹洞の巣の中で休みます。木の幹によく似た体の模様で上手に木立に隠れ、じっとしていると木のこぶのようにも見えます。



形クイズ ▶ オスとはすがたがちがうよ!

Q. ヤマドリのメスはどれ?



① ちゃいろのまだら



② あかとちゃいろ



③ あかとあお

A. ①

資料館

特設展示と絵本コーナー

特設展示は毎回、期間やテーマを決めて、通常の展示では伝えきれない動物や自然の面白さを取り上げています。特設展示コーナーの奥には、靴を脱いでくつろげる絵本コーナーがあります。



これまでの特設展示

カエル学にゆうもん (2015年)



いっしょうやかたち、東京のカエルにせまるピンチなど、知っているようで知らないカエルの秘密を楽しく学んでもらいました。

秋のいきもの広場 (2019年)



身近な生きものとの出会いを楽しむことのできる園内の「いきもの広場」。その生きものたちの冬支度の様子について紹介しました。

ヤマネコのちいさなおへや——お正月だよ！ヤマネコ展 (2022年)



絶滅が心配されるツシマヤマネコについて、そのくらしぶりや特徴、保全の取り組み、生息地である長崎県対馬の自然と文化などを紹介しました。

いろんなネズミーズ・コーナー

あみものが得意

カヤネズミ

げっ歯目ネズミ科

日本一小さなネズミです。草地にすみ、ススキなどの葉を編んで球形の巣を造ります。長い尾を使って敏捷に動き回り、種子や昆虫を食べてくまっています。



すんぐりむっくり 地下ぐらし

ハタネズミ

げっ歯目キヌゲネズミ科

多くの方が思い描くネズミのイメージとは少し違い、すんぐりとした顔と短いしっぽをもった草食のネズミです。地中に網目状のトンネルを掘ってぐらし、その中でも動きやすい体つきをしています。



大放飼場

日本で唯一繁殖するツル



タンチョウ

ツル目ツル科

日本で見られるツルでは唯一1年を通して生息し、繁殖をする種類です。ほとんどのツルは体の一部に赤い部分、白い部分、黒い部分があります。タンチョウはどこがどんな色かな？

穴ほり名人の鼻づかい

ニホンイノシシ

偶蹄目イノシシ科

ニホンイノシシは、丈夫な鼻を使って土を掘るのが得意です。鋭い嗅覚をたよりに、土の中から植物の根や昆虫などを掘り出して食べます。首から肩にかけて強い筋肉がつき、自分の体重と同じくらいのものであれば鼻を使って持ち上げ、動かすことができます。



園内の樹木

園内には約 7700 本の樹木があるよ



メタセコイア

校庭や街路樹によく植えられていますが、1945年に再発見されるまで絶滅した植物と言われていました。資料館前の大木は1950年にアメリカから初めて日本に送られた100本のうちの1本です。



ラクウショウ

水生物園(分園)には、1936年に植えられたラクショウの大木群がそびえ立っています。秋になると葉はオレンジ色に紅葉します。湿地でも生育でき、呼吸を補うために地上に伸ばした気根をオシドリ舎前などで観察できます。



イヌシデ

園内に最も多く、幹に白い網目もようがあります。4月ごろに咲く花は薄緑色をしています。秋にはギザギザした翼をもった種子をたくさんまき散らします。

イヌシデの花



アカマツ

イヌシデとともに井の頭自然文化園ができる前にあった雑木林の主要な構成種です。戦時中に戦闘機の燃料をつくるために松やにを採取した跡がある木が何本も残っています。

彫刻園

高さ 9.7 メートルの石膏原型

アトリエ館

彫刻家北村西望が長崎市からの依頼で巨大な平和祈念像をつくるために園内に構えたアトリエです。祈念像完成後も102歳で亡くなるまで、アトリエの片隅でくらしながら制作活動を続けました。



長崎平和祈念像

真上にあげた右手は原爆をさし、水平に伸ばした左手はいつまでも平和が続くことを願っています。石膏原型は104のパーツに分解でき、パーツごとに鑄造されたものが現地で組み立てられました。作者の平和を願うことばが刻まれた像の後ろ側も見る事ができます。



水生物館

潜り上手な水辺のハンター



カイツブリ
カイツブリ目カイツブリ科

巧みに水中にもぐり、小魚やエビなどの小さな生き物を食べます。同じ水槽に入っている小魚（モツゴ）はエサとして入れているもので、1日に100尾ほどを食べます。ヒナが小さなころは背中にのせて守る習性があります。

井の頭池にもいた！

カミツキガメ
カメ目カミツキガメ科

北米原産でペットとして飼われていたものが各地の水辺に放流されています。在来の生態系への影響が心配され、外来生物法で飼育や移動が制限されています。展示している個体も、井の頭池につながった水生物館前の水路で捕獲したものです。



貝に卵をうむよ！



ミヤコタナゴ
コイ目コイ科

都内で採集された標本から新種として報告されたため、東京にちなんでミヤコタナゴと名が付けました。しかし、都内のもは絶滅し、関東地方の限られた場所にしか生息していません。春から夏の繁殖期には、オスのひれにはオレンジ色がいり、産卵の準備ができたメスは半透明の産卵管をお腹から伸ばし、貝の中に卵を産みます。

毒々しいおなか！



アカハライモリ
有尾目イモリ科

かつては水田や用水路に普通に生息していましたが、都内ではほとんど見るができなくなりました。春の繁殖期には、オスの尾は青紫色に変わり、こざざみにゆらしてメスに求愛をします。

形クイズ ▶ カモとは違います

Q. カイツブリの足はどれかな？



A. ③

水生物館の観察ポイント

- 現在と湧水が豊かだったころの井の頭池の水槽を比べよう！
：小魚の種類数、水草の有無、カメの種類・・・
- カイツブリはどこを使って泳ぐかな？ : 水かきのかたちに注目
- ミヤコタナゴの水槽に貝が入っていますか？
：メスは貝の中にたまごをうむよ
- 魚たちが泳ぐときにつかっているところは？
：ヒレの動かし方やかたちに注目

水辺の鳥

恋の季節に美しいオス！



オシドリ
カモ目カモ科

オスは背中に立ち上がるイチョウ羽と呼ばれる大きな羽をもち、色どりも鮮やかです。秋から始まる求愛の季節には、オスたちは胸をそらせ、イチョウ羽を垂直に立て見せつけメスにアピールします。一方、繁殖期が終わるとオスの派手な羽は生え換わり、夏の間はメスと同じような姿をしています。

つがいのデュエット



オオハクチョウ
カモ目カモ科

翼をひろげると2mほどになる大きな水鳥です。夏にシベリアで子育てをし、秋に日本などへ飛来して冬を越します。つがいになったオスとメスは、コォー、コォーと大きな声で鳴き交わします。

日本では一度 絶滅したよ



ニホンコウノトリ
コウノトリ目コウノトリ科

長い足で水辺を歩き回り、魚やカエルなどをつかまえて食べます。昔は日本中で見られましたが、狩猟やエサの減少が原因で1971年を最後に国内では一度絶滅してしまいました。その後、動物園などで数を増やし野生に放す取り組みが続けられています。

粘り強く、水辺で獲物を待つ！



ゴイサギ
コウノトリ目サギ科

目立つ赤い目、頭から伸びた白い細長い飾り羽、サギにしては短い首と短い足がユニークです。日中はねぐらの藪で休み、主に夜間に活動します。池や川の浅瀬で動かずにじっと待ち、近づいてきた魚を捕らえます。水生物館前の水路で野生のゴイサギが狩りをすることもあります。

オスはおでこがかっこいい

ツクシガモ
カモ目カモ科



多くのカモのメスは、オスに比べ目立ちにくい地味な羽色をしています。ツクシガモは、オスとメスがそっくりで、白・黒・茶・赤が組み合わさった模様をしています。ただし、恋の季節をむかえたオスは、赤いくちばしの上側の付け根が膨らみ、色も一層鮮やかになります。日本では九州の有明海周辺で冬越しします。

形クイズ ▶ 季節によってすがたが変わるよ

Q. あなたが見たオシドリのオスはどっち？



A. ① または ②

水辺の鳥の観察ポイント

- 春は、ヒナがいる鳥を探そう！
- 秋は、美しくなったカモのオスを探そう！
- いろいろな足を比べよう！ : 歩く足、泳ぐ足...
- いろいろなくちばしを比べよう！

園内の自然と井の頭池

吉祥寺駅から歩いて10分もかからない町中に、オアシスのように自然が残っている井の頭自然文化園や井の頭恩賜公園、そして、井の頭池には、林や藪、草地、水辺といった多様な生きものの生息環境が広がっています。ここを訪れることは、飼育している生きものの観察だけでなく、身近な自然を発見し、親しむきっかけにもなります。



園内のいきもの探し

2月下旬のヒキガエルの産卵から、1年の生きものたちの活動が始まります。ほかの植物が成長する前に急いで花を咲かせるフクジュソウの黄色い花は、ハナアブなどの成虫で越冬していた虫たちを集めます。キタキョウなども動き出し、園内の花壇を飛びまわります。暖かい日にはトカゲが日の当たった石垣で日光浴をしています。まだ、生きものが少ない分、新芽の芽吹きなど普段気にしない小さなものにも目がむきます。



ヒキガエルの
オタマジャクシ



モグラ塚



ニホントカゲ



シマハナアブ

フクジュソウ



井の頭池のいきものしらべ

井の頭池の湧き水は、かつては2日で池の水がいっぱいになるほどの量がありましたが、都市化とともに減少し、1962年以降何度も池の水が干上がってしまいました。現在は井戸からくみ上げた水を流し入れて水位を保っています。また、人によって池に持ち込まれた一部の生きものの影響で、多くの昔からすんでいた生きものが姿を消しました。そこで、2013年度から「かいぼり」を実施したところ、少しずつ豊かな自然が回復しつつあります。

井の頭池の在来種



クロダハゼ



テナガエビ



モツゴ



木の実や落ち葉を探そう!

甘い香りのするカツラから始まり、深紅のハナミズキ、黄色のイヌシデ、1枚1枚の個性豊かなソメイヨシノ、最後に色づくイロハモミジまで、長く紅葉を楽しめます。植栽された樹木も多いので、落ち葉や木の実の種類も豊富です。ドングリがなる木は、園内にそれほど多くはありませんが、アトリエ館のまわりでコナラやマテバシイ、七井門の近くでスダジイを拾えます。



バードウォッチング

冬になると、夏に北海道やロシアなどの北国で子育てを終えた水鳥たちが次々と井の頭池へ飛来します。キンクロハジロやオナガガモ、オオバンなどが泳いだり、食べものを探す様子を観察できます。冬は、木々の葉が落ち視界が開けるので観察もしやすく、一年中みられる鳥の他に、多くの渡り鳥を観察できるため、バードウォッチングに適したシーズンです。



冬の間に見られる鳥たち



オナガガモ



キンクロハジロ



オオバン



ツグミ

動物園で身近な自然を観察しよう

小学校の生活科や理科では、身近な自然の観察がしばしば取りあげられています。動物園「いきもの広場」では昆虫を中心とした身近な小さな生きものの観察を、水生物園では外来種問題なども取り上げられる井の頭池を用いた学習プログラムを行っています。各学習のねらいにあわせたオリジナルのプログラムを組むこともできますので、ご相談ください。

→くわしくは p.24,25 へ



事前学習から動物に会う気持ちを盛り上げよう

動物を見る時には、あらかじめ具体的な「視点」をもって、そこを糸口にして今まで見えてなかった「発見」をたくさんすることができます。遠足などレクリエーション要素が強い来園でも、ちょっとした工夫で観察の意欲が増し、より豊かな気づきにつながります。看板を見て答えるような知識を問うものでなく、生きた実物を見ることで答えを導き出せるクイズや、その動物の最も特徴的なところに目を向けさせる指導が効果的です。教材やプログラムを効果的に活用するなどして、目的や学年に適した見学計画をつくりあげてください。

教材の活用

事前貸し出しキット

来園前に学校や園で遊びながら見学時の目のつけどころが身につく事前学習用の教材です。動物園でのエサがわかる食べ物パネルや、本物のヤマアラシのトゲなどが入っています。数に限りがあるので、繁忙期には事前にお問い合わせください。実地踏査時にお渡しします。来園時に返却してください。



ワークシート用資料集

実地踏査時にお渡しします

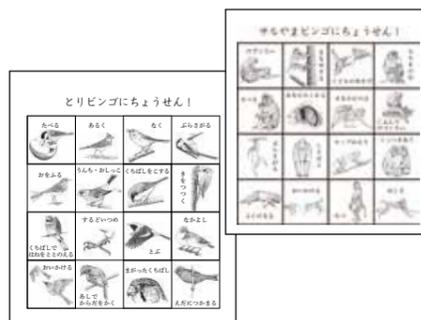
クイズでたんけん文化園

実際に実物を見れば答えがわかる問いかけを集めたもので、自然と動物の特徴に目が向くように作られたクイズです。季節によって答えが変わるものもあります。しぐさを見るものと形を見るものを織り交ぜて選べば、違った動物の見方を促すこともできます。ワークシートやしおりに取りいれてお使いください。



どうぶつかんさつビンゴ

サル山、野鳥の森を観察するときに使えるビンゴカードです。それぞれ、5×5マス、4×4マス、3×3マスなどがセットになっています。観察時間や年齢に合わせて、マス数を選んでください。20分程度観察すればほとんどの子がビンゴになり、長く観察することでオリジナルの発見も得られます。



ぶんかえんどうぶつめりえ

井の頭自然文化園にいる動物をめりえにしてあります。幼い子供でも、遊びをとおして来園した時に会う動物と親しくなれます。自分がぬった動物を探しながら見学を楽しんでください。事後学習で観察した動物を思い出しながらめりえを楽しむのもいいと思います。



来園当日の過ごし方

遠足や生活科で楽しく動物園で過ごしてもらうために、時間に余裕をもってまわっていただいています。

見学コースの例：

- 10:00 動物園（本園）に到着
- 10:15 園内散策スタート
クラス単位 または 班行動で動物観察
- 11:45 昼食、ぶらんこ広場で遊ぶ
- 12:30 見逃した動物・もう一度見たい動物をクラスで観察
- 13:00 水生物園（分園）によってから吉祥寺駅へ



園内散策時間を有意義なものにしよう！

クラス単位での見学の場合

引率者がガイド役です。このガイドブックを参考に子供たちに動物ごとの見どころポイントを話してあげてください。引率者が一緒に発見を喜べると子どもたちも自然と楽しくなります。すべての動物の観察に力を入れると疲れてしまいます。時間をかける動物を選んで、メリハリをつけましょう。



班行動での見学の場合

子どもたちが自分で発見できる楽しさを体験できるよう、このガイドブックやワークシート用資料集の観察課題を参考に、生きた動物に目を向けさせるワークシートをつくってみてください。問題数が多すぎると回り切れなかったり、1つ1つの観察がおろそかになったりします。小学校低学年で1時間程度の自由見学の場合、5～6問が適度な問題数です。



教員対象セミナー

例年、動物園を学校教育の場で有効に活用していただくために、学校の先生を対象として学習の目的にあわせた各種の研修を実施しています。



動物解説員による 解説プログラム

動物や動物園について、ちょっと詳しく話してもらおうとお考えの時にご相談ください。来園目的や団体の年齢・規模にあったご希望の内容で動物解説員が対応いたします。



■ 以下のようなプログラムを行っている例が多いですが、すべて事前に打ち合わせを行い、これ以外のプログラムで実施することもできます。お気軽にご相談ください。

クイズレクチャー

● 班行動で、子どものペースで見学・・・ **1・2年生におすすめ / 120人まで可**

入園 → クイズを解きながら班行動 (1時間) → 動物のお話を聞きながら解説員と答え合せ (30分)

問題数は、他の動物も見学することを考えると、小学校1・2年なら5・6問が適当です。形を見るものとしぐさを見るものを混ぜて出題するというような動物の見方ができます。

スポットガイド

● 1種類の動物をじっくり見る・・・ **じっくり観察をしたい団体におすすめ**

入園 → 班ごとのオリエンテーリング → 途中1種類の動物を解説員と一緒に観察 (1回につき50人まで、15～20分程度)

シカ・サル山のような大きめの展示の動物がスポットガイド向きです。人数が多い場合も、クラスごとに時間差をつけることで対応できます。

コースガイド

● 複数の動物をいろいろ見る

入園 → 解説員と一緒に3・4種の動物を観察 (45分程度) → 先生と一緒にほかの動物を見学

1グループとして対応できるのは20名程度までです。

テーマを持った見学

● 教科学習や特別な目的で動物園を利用する場合

見学の目的と展示が合っているか検討する必要があります。事前にご相談いただければ、さまざまな情報の提供、標本の利用などで、より目的に合った見学ができることがあります。複数回来園し、同じ動物を1年間追跡すれば、野外ではなかなか出会えない動物の季節変化を調べることもできます。

これまで動物解説員と行った学習プログラム例

動物の食べかたしらべ

入園 → いろいろな動物の食べ方を観察 → 頭骨で歯の形を確かめる

井の頭池たんけん・身近な水辺しらべ

入園 → 井の頭池にトラップをしかける → 採集した生物を観察

いきもの広場・身近な生きものしらべ

入園 → いきもの広場でどこにどんな生きものがすんでいるか観察



動物しらべ (4回来園)

1回目：導入：調べる動物選び 2回目：動物の特徴の話を聞き、標本類をつかってじっくり観察
3回目：班ごとの動物の観察 4回目：調べた動物の前で発表

オンライン授業

● 「飼育係の一日」、「どうぶつの赤ちゃん」「季節と生きもの」など

授業の目的や団体の年齢にあった内容で、動物解説員が生きものの映像やライブ中継などを用いてお話をします。来園前の事前学習としても効果的です。



オンライン授業
ご案内はこちら

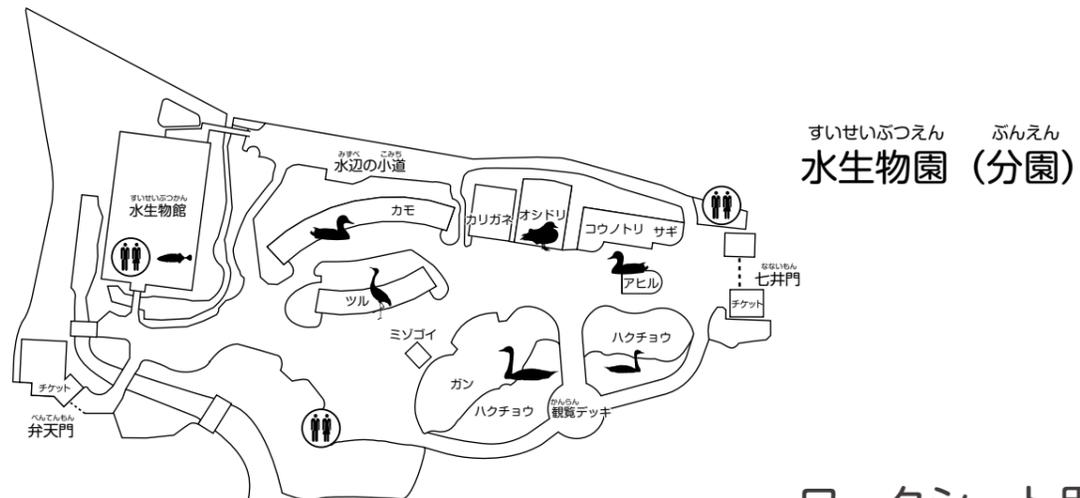
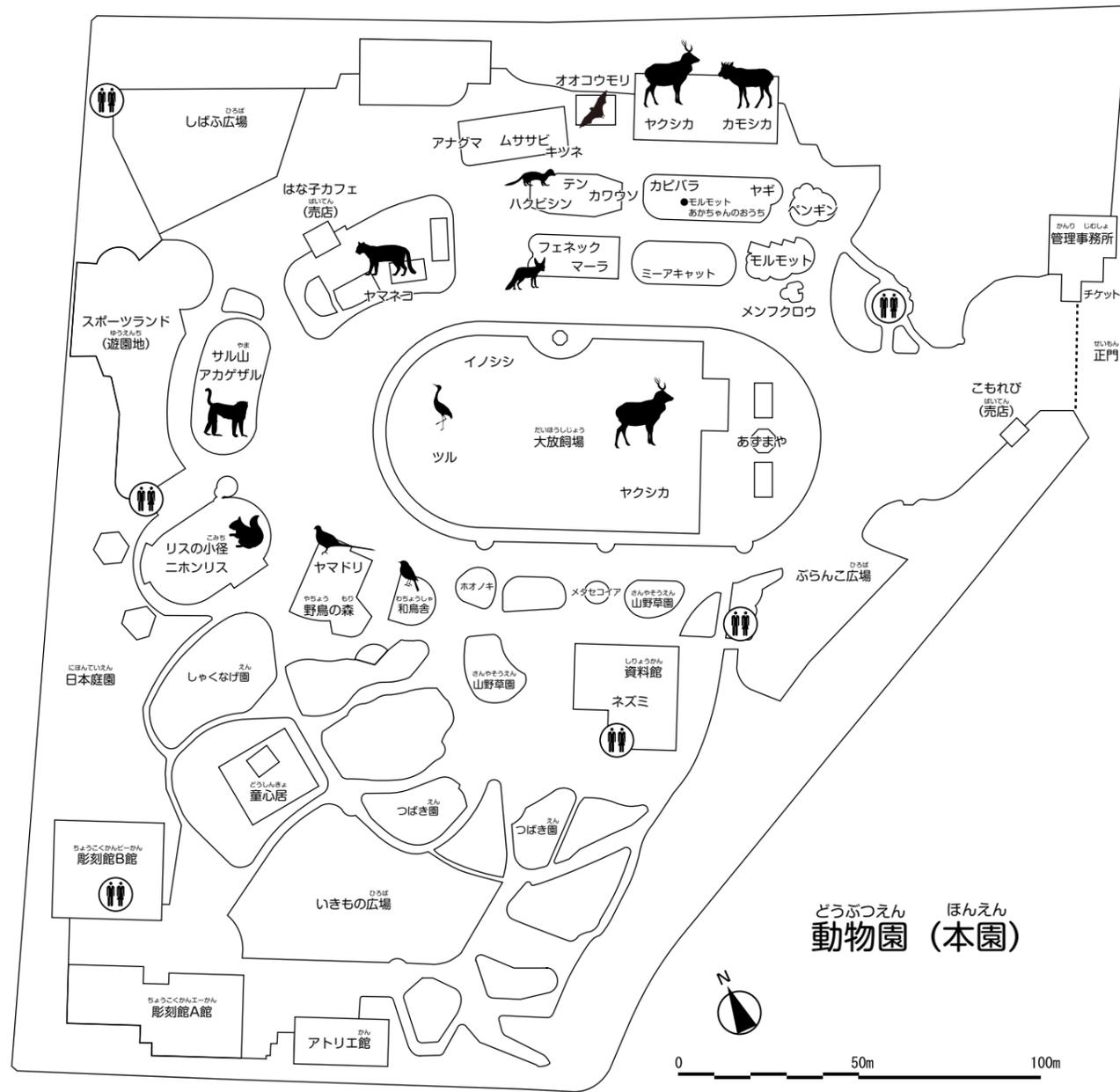
見学相談・解説・教材の申し込み

入園予約確定後に、電話かメールでお申し込みください。動物解説員が不在の時は連絡先をほかの職員にお知らせください。こちらから折り返し連絡いたします。また、動物の解説は申し込みが重なっている日にはご希望に添えないことがあります。

見学相談、動物の解説、資料や情報の提供等は、すべて無料で行っています。対応する団体は、幼稚園・保育園、小中高、大学、専門学校、それ以外の一般団体まで制限はありません。

〒180-0005 武蔵野市御殿山1-17-6 井の頭自然文化園 動物解説員

電話:0422-46-1100 FAX:0422-46-1906 e-mail: bunkaenguide@tzps.or.jp



ワークシート用白地図



発行：井の頭自然文化園

企画／執筆／編集：動物解説員

ピンゴイラスト：桑島正充

2025年8月25日 第17版発行



武蔵野市御殿山1-17-6 TEL 0422-46-1100

<https://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/>

動物取扱業の名称：公益財団法人東京動物園協会
事業所の名称：井の頭自然文化園
展示21 東京都展第100592号動物取扱責任者：吉瀬円
(平成19年2月16日～令和9年2月15日)